

ひとのチカラ

輝創 情熱

このコーナーでは、夢に向かって情熱を持ち続けながら、明日の薩摩川内市を創る、元気人、輝き人のこれまでとこれからを紹介します。

第8回は、政田 タマ子さんです。



政田 タマ子 (まさだ たまこ)

1923年熊本県吉市生まれ。新渡戸文化学園卒(旧東京女子経済専門学校)。市内で開催されていた料理講座で長年講師を務める。郷土料理研究家。近年は、自身が開所したグループホーム運営のアドバイスなども行う。上川内町在住。89歳。

生涯現役

「60代は小学生、70代80代は中高生、90代から100代までは大学生かしら」。今年90歳になる政田さん、シニア世代をそう例える。肌艶もよく背筋もピンと伸び、さつそうと闊歩する。出歩くことが多いからと連絡は専ら携帯電話。いつも首からぶら下げて持ち歩く。学ぶことが好き。その姿勢は今なお現役。放送大学で学ぶ学生でもある。終戦後、朝鮮半島から引き揚げてきた。降り立った日本の地は、冬場は大地が凍り雑草一本見当たらない大陸とは違う景色が広がっていたことに驚いた。「いざとなれば草の根が食べられないじゃない」。物を満足に食べられない厳しい時代を経験した。「食」に関心をもち栄養士や調理師の資格をとったのも、そんな時代背景が関係したのかも

しれない」と優しくほほ笑む。市の中央公民館で開催する料理講座の講師を30代の頃から約30年努めた。人に教えるなんて思ってもいなかったが、知り合いに頼まれ断れなかったことがきっかけ。「教えるためには、まず自分がよく知らなきゃだめよね」当時、必死に勉強したことを思い出す。講座生と一緒にになって、お互いに学び合うことが純粋に楽しかった。気がつけば長いこと続けていたと話す。今でも名字より「おたまさん」や「おたま先生」など愛称で声を掛けられることの方が断然多いという。

健康は食から

川内駅構内にある観光特産館「きやんせふるさと館」で販売されている商品名に「おたまさん」の名前が入る「酢」を主材料とした調味料がある。知る人ぞ知る人気商品。もともとは、らっきょうを漬けるために自ら考案し、漬物や煮卵を作る調味料として使っていた。講座生などに分けてあげていたら、美味しいと口コミで評判となり商品となった。店から在庫が少なくなると連絡がくる。500mlの容器70本程度を1回の作業で作る納品する。全て手作りのためその都度調査するが、味は動かない。作り方は昔から同じ。添加物などは一切使わない。はちみつや唐辛子など、何をどのタイミングで加える



「手作りの酢を使って調理した料理の一例。昨今は月東京で行われる物産展でも販売される。

かで味の明暗が別れる。そこには長年の経験と「健康は食から」という自身の思いもブレンドされている。

とにかく楽しく

「忙しそうとよく言われるけど、どう思うかは自分自身でしょ」。80歳目前で開所したグループホーム。以前から温めていた構想を具現化した。これも「学び」の延長線上にあったもの。現在は運営を娘らに譲っているが、関係する会合や勉強会などへは出席することも。ホームのスタッフには、「相手と同じ目線で接し、全員家族だと思っ

てほしい」と諭す。
「過ぎたことは考えても仕方がないじゃない。とにかく楽しく、仲良く、どう生きるかということじゃないかしら」元気の秘訣をこう説いた。興味が向けばすぐ行動。娘たちの心配をよそに、好奇心と学びの姿勢はとどまることを知らない。

そこが知りたい！歴史散策シリーズ

第8回

馬頭観音・笹嶺馬頭観音

知っているようで知らない薩摩川内市に点在する文化財をクローズアップ!!

馬頭観音とは

梵名でハヤグリーバア(馬の頭を持つ者)と呼ばれており、ヒンドゥー教の最高神・ビシュヌ神の化身が仏教に取り入れられた姿とされています。本来は人の煩惱を食べ尽くして救済する観音ですが、牛馬の供養や無病息災の祈願の対象となることが多く、地域によっては水神と結合し、農耕の守護神としての性格も持っています。

これは、馬頭観音が畜生道における菩薩の姿であることが影響していると思われま

馬頭観音像の特徴

頭上に馬をモチーフとした装飾が施されており、3つの眼を持っています。赤く着色されているものが多く、顔つきは怒った表情を浮かべています。この表情は、他の観音像には見られない、馬頭観音ならではの特徴です。

頭上に馬をモチーフとした装飾が施されており、3つの眼を持っています。赤く着色されているものが多く、顔つきは怒った表情を浮かべています。この表情は、他の観音像には見られない、馬頭観音ならではの



右側の顔の表情



正面の顔の表情



左側の顔の表情

笹嶺馬頭観音

この馬頭観音は、3つの顔と複数の腕を持った姿をしており、本市にある馬頭観音の中でも特に手の込んだ造形となっています。肩から生えた2本の腕で印契を結んでおり、背中から生えた残りの腕では斧・数珠などの道具を持っています。その精密に彫刻された技法は、美術工芸的な観賞価値も認められ、塗装されていた痕跡も見られます。多くのものと同様に、江戸時代に人々が牛馬の安全と増産を祈って造立されたと思われるが、製作者などは判っていません。なお、笹嶺馬頭観音は、昭和50年(1975年)9月1日に、旧樋脇町の有形民俗文化財に指定されています。

今回は「中陵・端陵」を紹介します。



階段の上に笹嶺馬頭観音

馬頭観音祭り

薩摩北部地域では、旧暦の3月上旬から4月上旬にかけて、馬頭観音祭りが催されます。季節も場所も花見をするのに適した時期のため、これらを兼ねて行われる事例もあります。五穀豊穡を祈って丘の上に土を盛り、周辺に芝を、上に小松(供養松)を植える風習もそのひとつです。

- ※1 インドで使用される名称
- ※2 仏教における、牛馬などの人間以外の動物の世界
- ※3 馬に跨ったものや馬そのものの容姿をしている場合もある
- ※4 仏や菩薩にみられる、指を組み合わせた表現方法

今回紹介した文化財位置図



【問合先】=教育委員会文化課 ☎(23)5111(内線5233)